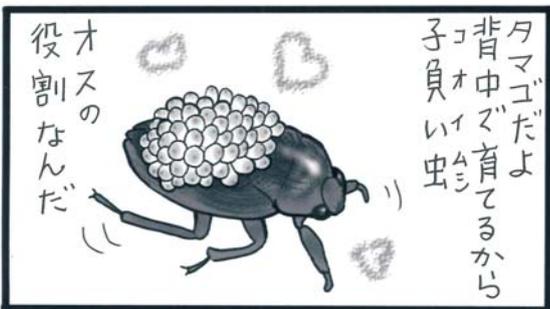


第49回 オオコオイムシ

カコちゃん ショウくん かまぐたムシドレン



オオコオイムシは、水生カメムシ類と呼ばれる水の中にいるカメムシの仲間です。親戚にはタガメがいます。タガメと違う点として、コオイムシの仲間は、メスがオスの背中に卵を産み付ける習性があることが挙げられます。名前（子負虫）の由来もその習性によるものです。よく間違えられますが、卵を背負っているのはオスです。幼虫が孵化するまで数週間、オスが卵を守ります。コオイムシ類の成虫には翅がありますので、飛翔して移動することができますが、子育て中のオスは、卵を背負っているので飛ぶことができません。一方、メスは飛んで他のオスを探しに行くことができます。

コオイムシの仲間には、本土にすむオオコオイムシとコオイムシのほか、沖縄にすむタイワンコオイムシがいます。コオイムシは日本本土の他、中国や朝鮮半島にも生息しています。オオコオイムシは北海道、本州に生息しています。河北潟にいるのはオオコオイムシです。

オオコオイムシの生息場所としては、田んぼの水路やため池などの小さな止水域（水の流れがない水辺）がイメージされますが、河北潟では湖岸の植生がある場所からも見つけることができます。図鑑には、オオコオイムシの生息環境としては、丘陵から山地の水深の浅い湧水を伴う湿地、コオイムシの生息環境としては、平地～丘陵地の抽水植物の豊かなある程度の大きさの池沼などと書かれており、河北潟は、オオコオイムシよりコオイムシが好む環境のように思われます。河北潟はオオコオイムシの生息地としては、ちょっと変わっているかも知れません。

餌としては、いろいろなものを食べるようですが、サカキガイやモノアラガイなどの小型の巻貝よく食べるといわれています。カメムシの仲間なので、口は中空の針状になっていて、そこから消化液を出し、溶けた肉を吸い取って食べます。トンボのヤゴやメダカなどの魚も捕らえるようで、名前に似つかわしくないけっこう獐猛な昆虫のようです。

石川県ではコオイムシは絶滅危惧Ⅱ類の扱いになっており、いしかわレッドデータブック動物編2009によると、能登の2箇所からしか確認されていません。オオコオイムシは、今のところはまだ石川県の絶滅危惧種には指定されていませんが、となりの富山県では、準絶滅危惧種に指定されており、石川県でも減少している可能性があるため、オオコオイムシも大切に守りたい河北潟の仲間です。（文：高橋 久）